

基地撤去をめざす 県央共闘

* ↑タイトル・題字募集中

NO. 11

2009.4.21

発行：原子力空母の母港化に反対し
基地のない神奈川をめざす県央共闘会議
〒242-0028 大和市桜森 3-5-3 フォント 1F
事務局連絡先 090-7402-5245
編集責任者 檜鼻達実



陸上自衛隊広報センターの展示ゾーン。中央に AH-1S ヘリ、左側に 90 式戦車、手前フライトシュミレーター。



基地隣接している演習場に配備された PAC 3。発射口は西向きになっていた。



基地拡張反対闘争が砂川町立川基地北側にある遊休国有地“平和公園”に造り変え、運動のシンボル地に。毎年、祭りを開催。



瑞穂町の「ビューパークスカイホール」の屋上から横田基地が一望できる。常駐機の C-130 空輸機が待機している。

「海外派兵」と街中の軍事基地

基地撤去を掲げる運動団体の事務局の一員。軍事基地を「問題」として問うためには基地の実態を知る最低限の知識が必要と苦戦してきたが、未だに厚木基地に飛来する機種の見分けがつかない。情けない。私が最もこだわってきたのは、反基地運動の歴史の継承、そして、これから。そのためにはどうしたらいいか。一 手掛りを求めて9年経った。

今年も昨年の百里基地、霞ヶ浦の自衛隊基地見学に続いて4月5日、朝霞基地（陸自）、立川基地（陸自）、横田基地（米軍）の3箇所を現地の運動団体の案内で、バスハイクを実施した。事前に公募し、申込みのあった19名で早朝の7時30分、JR相模原駅を出発した。この企画は基地問題の登竜門のひとつ。晴天にホッとしました。朝霞基地の「広報センター」に10時到着を目指す。ところが、9時に着いてしまった。やむなく周辺の公園を散策。桜満開の公園でバーベキューの準備をするグループ、家族連れを横目に時間を費やす。

10時、「戦争に協力しない！させない！練馬アクション」の池田、横山さんに合流。陸上自衛隊広報センターは今風の「テーマパーク」。陸自の成り立ちと現在の動きを展示。館内には現役の90式戦車、AH・ISヘリそのまま。フライトシュミレーター（体験）には行列。屋外には戦闘車両が数台展示。「日の丸」を着けたイラク・サマワで活躍した車両も展示されていた。ここには悪名高き「大日本帝国陸軍」につながる物は一切ない。キャンプ座間の陸自第4施設大隊の広報担当と同様に、案内自衛官も人当たりの良いソフトな隊員であった。

隣接している演習場に向かう。車中からパトリオットが北向きに配備されている。数台の軍用車両とテン

ト内に自衛隊員。昼食会場の新座緑地に着くと、平和委員会の人が望遠鏡で動きをとらえていた。誰かが11時20分に発射されたと携帯からの情報。時刻は12時。あれ！遠眼で観ても自衛隊員の動きに緊張感は全くなし。こちらでは、フェンスを隔てて花見で賑わう人びと。昼食後、川越街道を西に立川へ。またまた予定時刻の15時を早まる14時。米軍立川基地跡地にある「昭和公園」の待ち合わせ場所に到着。案内をしてくれる「立川自衛隊監視テント村」の大西さんと合流。

防災拠点と軍事基地の連携

77年に返還された土地は今では「立川広域防災基地」に変貌していた。区画整理され、国や東京都の防災関連施設が建ち並んでいる。立川市役所もここに移転してくるとのことだが、アクセスは多摩都市モノレールだけ。JR立川駅から徒歩で30分位かかるのではと推測。通り一本隔てて、陸上自衛隊立川基地。「広域防災基地」の中核、都内唯一の滑走路（1200m）を持つ自衛隊基地であるため、部隊輸送中継基地としての性格が強い。主力軍用機はヘリコプターである。格納庫前に数機が待機していた。立川基地からかつて基地拡張反対闘争の現場となった砂川町を通り、横田基地に向かった。基地全体が見通しできる瑞穂町の「ビューパークスカイホール」へ。高台に建設されているため、屋上からは基地が一望できる（P1参照）。現在、府中にある航空自衛隊航空司令部が今年度に移転してくるため、施設建設が始まっている。米軍と自衛隊との「空」の共同統合運用が始まろうとしている。駆け足での基地見学終了。

資料を用意し、案内いただいた池田、横山、大西さんに感謝。

法治主義の放棄と平時が「有事」の怪

3月13日、ソマリア沖海賊対策を名目に、「さざなみ」「さみだれ」の2隻の護衛艦が呉港を出発。根拠法となる海賊対処法案が審議入りした4月14日までに、「海上警備行動」の対象外の外国船を「保護」する事例が2件起きている。何が問題なのか。政府が派遣根拠としたのは、自衛隊法の82条の海上警備行動。インド洋での給油活動、イラク・サマワの支援活動等は、特別措置法を制定してから派遣してきた。こうした法によって、文民統制をしていくことで、自衛隊が暴走することのないように歯止めがあった。政府には、自衛隊の海外派遣を「恒久法」にしようとする意図がある。そのための地ならしか。なし崩しか。「ミサイル騒動」が生み落としたこと。一弾道ミサイル防衛（BMD）システムの実施訓練の狙い

があった防衛省幹部「今までPAC3をここまで大っぴらに展開したことはなかった。BMDシステムにとって壮大な訓練だ」（朝日4月4日）。ゲーツ国防長官は、「今回の事態のプラス面は、日米間の運用上の調整や協力を改善する改善する機会」と浜田防衛相との電話会談で語った（朝日・同）。ミサイル防衛がもたらした「ミニ有事」に国民への教育効果の狙いも伺えると報じたのは東京新聞。「日本への落下は考えにくい」（官房長官）にもかかわらず、自衛隊法82条2の第3項を使って「万が一に備え」（同）MDを発動させた。平時でも有事に準じた対応ができると実証された」（東京3月28日）。「緊急連絡網が整うなど、地方自治体の危機管理意識も掘り起こした」（東京3月28日）。連休に、浜田防衛相がゲーツ国防長官と会談。更なる日米軍事同盟の強化となって現出しようとしている。

反戦・平和運動を より強固にしよう

ミサイルと背中あわせの花見かな (!?)

野本 陽吾 (エコアクションかながわ)



はからずも北朝鮮の「人工衛星」が発射された当日の自衛隊に接することになった。

午前中に見学した陸上自衛隊広報センター。案内スタッフとして立っている迷彩服の自衛官たちは、みんなひたすら愛想が良く、一見して人柄も良い。「技術畑の自分が

こんな業務に配属されるなんて驚きでした」などと話してくれた。もう北朝鮮ミサイル撃ったんですかね、との質問にも「いやー、さーどうなんでしょう、自分も今ここにいるんで、ちょっとわからないです」と当然の答えが、まっすぐに帰ってくる。ずらり並んだ物々しい装甲車両の説明をしてもらったが、その場の雰囲気には緊迫感のかけらもない。

一方、隣接の公園から見学した朝霞駐屯地内・PAC3配置場所の周辺では、さすがに行き交う自衛官の表情も硬い。フェンス一枚隔てた公園では花見客が楽しく飲食しているが、全くの別世界。そうはいつても、外から見る限り、ここにも慌しさは全くなく、とても本物の臨戦体制の感じではないと感じた。私たちの近くでNHKのテレビカメラがPAC3発射装置に照準を合

わせていたが、結局なにごともないまま、やがて「無事終了」のニュース。それから20分もしないうちに、隊員たちが機材の片付けを開始。首相周辺のわざとらしい大騒ぎに付き合わされた現場隊員には同情したくなる。

とにかく、当たり前のことながら、自衛隊全体がミサイル騒ぎ一色に染まっているわけでは全然ないことが確認でき、まずは少しだけ安心。一方で、自衛隊員が命令一つでどうにでも動かされなければならない人たちであることも実感。20年近く前、自衛隊の海外派兵がまだ珍しかった頃、駐屯地の前で「派兵命令を拒否しよう！」なんてシュプレヒコールを繰り返したこともあったが、改めて思えば、若い自衛隊員がヘンテコな戦争に狩り出されないようにする責任は、自衛隊員自身にはなくて一般市民にこそあるのだった。そう再認識した。

ほかにも、立川駐屯地と横田基地との関係など、勉強になったことは多かった。なかでも気持ちを動かされたのは、立川の遊休国有地が「自主管理」されている、住宅地の中の小さな公園だった。

真ん中に、テント村の皆さんが中心になって立てたという「公園の木たち」の絵看板。敷地内の一本一本の樹木種名が、手書きの楽しい配置図に示されている。この場所で毎年、地元のお祭が開かれ、三々五々集まる人が延べ200人くらいにはなる、と伺った。実際そうしている間にも、犬連れの地元の人が敷地内に自由に入ってくる。基地のない「未来」をめざすのは大事だが、ここでは「今」、小さくとも現実に「みんなの場所」が作られていた。こういうことが、なかなか困難ではあるけれど、基地撤去の運動の中で、もっともっとやれるといい。無責任ながら、そんなふうに夢見しながら帰途についた。

陸と空と海で基地強化反対(岩国)

—米軍住宅反対署名11万筆を防衛大臣に—

4月7日、「愛宕山に米軍住宅はいらない」を合言葉に進められた署名は11万筆を突破。目標としていた5万筆を越え11,516筆となり、浜田防衛大臣に提出することになった。第2衆議院会館会議室に集合した上京団15名は、「沖縄等米軍基地問題議員懇談会」の第12回総会に出席し、鳩山会長(民主)等に現状説明。防衛省、外務省の担当等に要請書と「署名簿」を提出するとともに、岩国基地の沖合移転に協力することと、優良住宅開発に寄与するとして、なくなっただけで「米軍住宅」が建設されるなら応じなかった。参道も用途変更され、神社参拝もままならないと訴えた。



これに対し防衛省（地方協力局）は、山口県知事、岩国市長から用地の4分の3の土地を国で買い取って欲しいと再三要望がある。現在、その方向で検討していると回答。利用については決定していないと回答した。米軍住宅、米軍施設の建設阻止の闘いは始まったばかりだ。

岩国でも爆音訴訟！

米軍機の爆音に悩む住民が、飛行差し止めや損害賠償を求めて相次いで提訴しているが、戦後63年、岩国基地周辺住民は我慢をし続けてきた。

3月23日、「これ以上の爆音はいらない」と山口地裁岩国支部に原告476人が訴状を提出。爆音被害額5億4万円の補償を求めているが、全国で初めて米軍再編にメスを入れる「艦載機の岩国への移転差し止め」を請求趣旨に加えた意義は大きい。この提訴を皮切りに、被害に悩む住民の問い合わせが続いており、追加提訴の準備も進められている。空母艦載機57機が厚木基地から移駐してくると米海兵隊岩国基地の米軍機は120機となり、機数で極東最大の基地になる。不足する4千人分の米軍住宅の候補とされたのが愛宕山開発事業跡地。売却の見込みはたらず、事業主体の県市は国に泣き付いた。人口約14万9千人に岩国で、50,920筆は大きく重い。

「違法逮捕を許さない」河内国賠訴訟・公判と報告会

エコアクションかながわのメンバーの河内誠さんは2007年1月、自宅前（上鶴間）で神奈川県警に突然逮捕されました。友人と3人でルームシェア生活をしてきたことが「住居を『アジト』にしており詐欺にあたる」とされたのです。11日間にわたる勾留ののち不起訴となったものの、職を失い、それまでトラブルもなかった住居からも退去を余儀なくされました。不当な権力行使への国家賠償を求め2007年12月に提訴。

次回・第8回公判では、被告側が資料提出しないかわりに警察の捜査責任者を証人として呼び出すことが決定。裁判の一つの山場となります。多くの方の傍聴をお願いいたします。

なお、公判終了後に報告会も予定しています。

【日時】2009年5月27日（水）

集合13:00 公判13:30～報告会17:30～

【場所】集合：横浜地方裁判所・西側玄関外
公判：横浜地方裁判所601号法廷

【報告会】横浜市職能開発総合センター4階・大教室
（JR石川町駅から徒歩7分）

【連絡先】電話：090-4726-3122（野本）

基地撤去をめざす県央共闘会議 第10回定期総会の開催

日時：2009年5月23日（土）午後1:30より

会場：大和市商工会議所大会議室（3F）

議事：08年度活動報告及び収支決算報告

09年度活動方針及び収支予算（案）、役員体制等

*3時より

記念講演 講師／齊藤 光政さん（東奥日報社）

テーマ／（仮）米軍再編最前線

当 面 の 行 動 予 定

04月24日（金）～28日（火）第7次韓国・反基地平和ツアー（4泊5日）

05月13日（水）県央共闘会議第6回幹事会（18:30～大和市生涯学習センター208号室）

05月23日（土）県央共闘会議第10回定期総会（13:30～大和市商工会議所大会議室）

06月06日（土）戦闘指揮訓練センター建設反対集会・デモ（予定）（13:30～鹿沼公園）

06月22日（月）第四次訴訟第7回口頭弁論・報告集会（12:30～スタジアム前集合）